

第2回少人数教育推進検討委員会の概要

1 報告事項

第1回少人数教育推進検討委員会の概要について、事務局から説明。

2 議題

(1) 中学校における少人数教育の在り方について

- ・中学校における少人数教育の在り方についての論点として「どのようなことを考慮する必要があるか」、「どのような方策が望ましいか」の2点を事務局から提示。

○委員からの主な発言

- ・一定規模の集団では、様々な立場や背景・考え方をもった生徒たちが集まる中で切磋琢磨することができる。そのため、中学校では一定規模の学級が自立・協働・多様な価値観の獲得に有効である。
- ・中学校では社会的自立に向け、多様な考えに触れる集団学習が重要である。一方で支援が必要な生徒も増えており、加配などで個別対応との両立を図るべきである。
- ・不登校の子どもの中には大人数が苦手でも少人数なら力を発揮できる子がいる。
- ・一方、中学校の少人数化は教員負担への影響を慎重に検討すべきである。
- ・1学級増による中学校教員の週持ち授業時数の試算が示され、教科担任制下で学級を増やした場合、教員の時間的なゆとりを減らす構造が数値で確認できた。
- ・多様な先生と関われるアクティブクラスは保護者として安心感がある。
- ・学級増による利点もあり、学校が選択できる柔軟な制度が望ましい。
- ・少人数化だけでなく授業の質の向上が重要である。教師の力量形成や多忙化解消に向けた支援、AI時代を見据えた教育環境整備を一体的に進めるべきである。
- ・教員には時間的・精神的な余白の双方が必要である。授業力向上には教員同士が学び合う場を確保し、AI活用などで業務を効率化して授業研究の時間を生み出すべきである。
- ・教員養成段階からチーム支援や発達段階への理解を深める必要がある。 など